

1,339名新たな門出



成人代表で、挨拶を述べる
池宮城秀彰さん



旧友のみんなで



写真 左 泉川さん 右 稲田さん

ひまわり共同作業所の成人のお二人



ごみてるの？

おめでとう 新成人

一月十二日(日)に、市民会館で行われた成人式では、色鮮やかな袴や振り袖に着飾った新成人たちで、華やかに彩られました。式場では、新成人を迎える、男性六九六名・女性六四三名、合計一、三三九名へ、市長から激励の祝辞や市の青年連合会の皆さんによる余興など、趣向をこらしたお祝いが送られました。日頃会えない友人と会え

る日でもあり、久しぶりにはしゃぐ姿は、やはり二十歳の若者。しかし、あどけなさが残りにながらも、二十歳のスタートをきった皆さんの顔は、成人の自覚と責任を持つ、頼もしい大人の顔になっていました。また、ひまわり共同作業所でも二十四日、成人を迎えた「稲田知恵さんと泉川あずささん」が晴れて成人の仲間入りをしました。

夢実現の頑張れ新成人

心休まるの草の香り

= 大山タタミ店 =

今回は、日本人に馴染みの深い畳のお店、大山タタミ店を営む大山廣さんを紹介します。大山さんは畳店を営む親戚が多く、幼少の頃から、親戚の畳店でのアルバイトで技術を身につけました。畳店をしてきた知人から機械を譲り受け、夫婦でお店を開き二十九年経ちますが、朝早くから、夜遅くに終わるとい生活が実を結んだのはここ二十年のこと。仕事も手作業で、畳の寸法取りなど、今ではコンピュータでできる事も、昔は一枚一枚違う大きさの畳をものさして測るなど、大変だったそうです。



大山 廣さん
野嵩2-19-17
☎892-6346



タタミの縁を丁寧に縫い合わせる大山さん

目標は海外にお店を出す事。現在、工場では障害者の方も一緒に働いています。彼らの素直さや労働意欲から、これからも採用したいと語ります。一枚三十キロの畳を三枚一度に運んでいたため、手のひらが大きくなったという大山さん。腰を痛めてからは職人の仕事を退きましたが、手にはまだ、職人の跡が残っています。大山さんにとって畳とは？の質問に、「心休まる畳間」と。お店は心安らぐ草の香りに溢れていました。

がんばる

産業人